

## 和歌山大学クリエ・EAT!～食による和歌山活性～

### 食で和歌山を盛り上げる！

作成者・ミッションリーダー 田村 滯

#### 1.目標

- 和歌山の旬の食材の魅力が分かる冊子を作成する。
- 取材の回数を重ね、今後の活動として考えている収穫ツアーなどのイベントを開催するためのきっかけとする。

#### 2.目的

和歌山県には、多数の魅力ある食材が存在する。例えば、梅は「紀州南高梅」というブランドが構築されているほどであり、またみかんは県内で数十～百種類もの品種が栽培されている。季節に応じて様々なみかんを食することができ、全国第1位の生産量を誇る。

しかし、和歌山県以外の出身の人にはこの2つの食材が一般的に知られており、他の食材はまだ知られていないことが多い。紀美野町や有田川町で生産が盛んな山椒は、実は生産量第1位であり、多くのちりめん山椒や他の商品に和歌山県産の山椒が使われている。また、和歌山の温暖な気候を生かしたキウイやアボカドなどの農産物、醤油や味噌など和歌山発祥の加工品など、和歌山は食の宝庫なのである。

和歌山大学には県外出身者の学生が多く、和歌山を第三者の視点で見つめることが可能である。そこで本ミッションでは、学生が直接生産農家の方や加工品製造会社の方のもとを訪れ、実際にどのような過程で食材が作られていくのか、生産することへの思いなどを聞かせて頂くことで、和歌山の食材には美味しさだけでなくストーリーがあることを理解する。そして聞かせて頂いた内容をフリーペーパーで発信することで、学生に和歌山の食材の魅力を知ってもらおう。また生産者には、栽培・生産することへの誇りをフリーペーパーという目に見える形で感じてもらう。

#### 3.主な活動内容

本ミッションでは、和歌山県庁やJAのご協力のもと、和歌山の食材にはどのようなものがあるのか情報提供を頂き、毎回2つの食材に絞って勉強会を実施した。また、メンバーの能力に合わせ、文章班とデザイン班の2つに分かれ、文章班ではどのような文章にすると読者に伝わりやすいか、デザイン班は印象に残るデザインとはどのようなものかを話し合ったうえで冊子を作成した。

#### 4.具体的な活動内容

##### 食材の決定・勉強会

季節や和歌山県の生産の状況に合わせて、メンバー内でテーマを設定し2つの食材（第2号では山椒と柿、第3号では桃と養殖鮎）を決定した。勉強会については、メンバーの中で2つのグループに分かれ、食材の県内における主な栽培地域や購入先、それを利用したレシピなどを調べ、共有した。

##### 取材先の決定と大まかな構成の検討

山椒栽培農家の方はメンバーの一人に紀美野町で活動をするメンバーがおり、そのメンバーに連絡をお願いし依頼した。柿生産農家の方は観光学部のプログラムである農村ワーキングホリデーでお知り合いになったかつらぎ町在住の方をお願いした。

桃栽培農家の方については、観光学部の学生の両親が桃を生産しているという情報があり、その方に取材に協力して頂いた。その方は紀の川市桃山町で代々桃を生産している方であった。また養殖鮎については和歌山県庁の方に養殖鮎生産業者の方を紹介して頂いた。

また、同時にどのような内容を掲載するか簡単にまとめた上で、メンバー全員で質問内容やどのような写真を撮るかについて検討した。

##### 取材

取材前にあらかじめ質問内容を送り、効率的にインタビューを進められるようにした。インタビューでは正確な情報を提供できるよう、また文章作成時に振り返ることができるよう取材前に音声の録音許可を取った上でボイスレコーダーを用いて録音を行った。内容としては、生産過程やその食材の現状、それを打開するための取り組み、生産者おすすめのレシピなどを中心に、生産者の目線と消費者の目線を意識してお話をお聞きした。どの方も質問にとっても丁寧に答えてくださって、紀美野町の山椒栽培農家の方からは今後和歌山が山椒の産地であることを知ってもらうためにどのような取り組みをすべきかと意見を求められることもあった。生産者はそれぞれ異なる現状やバックグラウンドを持っており、その違いを知ることができた。

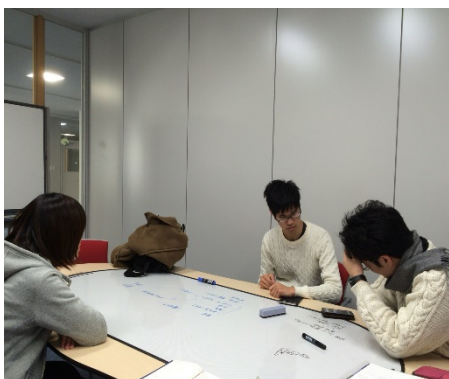
##### 編集と発行

取材終了後、メンバー全体で簡単に取材を通して良かったこと、改善すべきことを話し合い、具体的な内容の検討に入った。文章班はまずボイスレコーダーで録音した内容の書き起こしを行い、どのような内容を重点的に話されていたかについて確認した。デザイン班は撮影した写真の選定を行うと共に、一つ一つのコーナーの配置などについて話し合った。なお、レイアウトの編集はIllustrator、Photoshopを使用した。文章班、デザイン班でまとまった案はメンバー全体で共有し、お互いに改善点などを協議した。

文章は指導教員の藤田教授に不備な情報がないか添削をお願いし修正した。デザインは同じく指導教員の北村教授をお願いし、良い点や改善点を挙げて頂いた。それぞれの班で修正を繰り返し、最後はメンバー全体で最終的な確認を行い、印刷会社に発行を依頼し、発行した。

編集で、普段の授業では扱うことができない2つのソフトを使用することで、今後広報の業務を志望するメンバーにとってはとても有意義な時間であった。また、それ以外のメンバーでも新たなスキルを身につけることができた。そして、取材後の反省会を毎回行うごとに取材の質が高まっているように感じた。例えば、勉強会でメンバーそれぞれが異なる内容の紹介をするので、様々な知識を持って取材に臨むことができ、インタビュー時にスムーズにお話を聞かせて頂くことができた等、反省会にのぼる話題のレベルが少しずつ高度になった。

課題としては、取材から発行までに長期間かかってしまい、旬の食材を紹介するという目標を達成することができなかった。これは最大の課題であり、今後の活動で最も考慮しなければならない内容であった。



## ミーティング

週に1回、昼休憩か授業の1コマ分の時間を使って行った。内容としては、班それぞれの進捗状況の確認・報告や冊子の構成についての話し合いが中心であった。ミーティング前に何を話し合うかあらかじめメンバーに伝えてからミーティングを行うようにしたが、話し合いが進まないこともあった。

## 5.結果・成果

フリーペーパーは観光学部棟に100部設置し、全て手に取って頂いた。また、試験的に南海和歌山大学前駅横のイオン和歌山にある未来屋書店様に30部設置させて頂いた。

生産者から頂いた報告として、山椒栽培農家の方から今後の販売促進や都市住民の受け入れについて協議する会合の参考として冊子を利用して頂いたという声があった。

また、学生からは実際に桃生産農家の方を訪れて購入し、調理をしたという声もあった。ある程度の効果はあったのではないかと考えている。

## 6.今後の課題・展望

まずメンバーのスキルについて述べる。取材を通じて社会人としてのマナーを身につけることができた。取材日の決定の際はメールではなく直接電話をした。失礼のないようにどのようにやり取りをすると良いかをメンバー内であらかじめ考えておくことでスムーズにお話することができた。インタビュー時も同様である。最後に冊子の提供とお礼状の作成をすることで今後の活動のご協力のための依頼も行った。また、5の「編集と発行」にも述べたが、新たなスキルの獲得がある。Illustrator や Photoshop は大学の授業では扱われることが少ないので、このミッションで使用したことで他の活動にも生かすことができる。

次に今後の課題として、メンバー内のコミュニケーションが挙げられる。メンバーはそれぞれ加入している部活動やサークルとの両立でこのミッションに参加しているため、ミーティングに参加できないメンバーもあり、どうバランスを取っていくかをメンバー内で協議する必要がある。そのため、新メンバー募集の際にまずこのミッション自体の目標や理念をもう少し具体的に示さなければならない。確かに食材を知ってもらうということは重要だが、今考えると具体的なターゲットや手法、ミッションを実現するにあたりメンバーがどのようなスキルを持っているのかなど、様々な内容が不足していたのではないかとということが大きい。特に、デザインの面では Illustrator や Photoshop を使いこなすことが難しく、それが原因で発行日が遅れてしまったということが最大の要因である。フリーペーパーを通して発信することも一つの手法であるが、メンバーの状況によってはそれ以外の手法も考える必要がある。

そして、今後の展望としてはこれまでの活動を通じて新たな取組をすることである。これまでに様々な農家の方や加工業者の方を取材したことで様々な方とのコネクションができた。この繋がりを活かし、来年度は取材に協力して下さった方や和歌山県庁、JAなどと共同で新たな商品開発や、特に以前から構想している収穫ツアーなどイベントの開催を行うことができると考えている。それを通して、和歌山の食材の発信にさらに貢献していきたい。

## 7.感想

ミッションリーダーとして至らない点が多く、思うように進めることができなかった点についてはメンバーに対しても申し訳なく感じています。しかし、積極的に意見を出してくれるメンバーや、取材に協力して下さったすべての皆様、情報提供をして下さった和歌山県庁、JA の方々には本ミッションの実現のためにお力添えを頂き、感謝致します。今後どう活動していくかはまだ未知数ではありますが、これからも和歌山の食材を発信するために日々努力して参りますので、今後ともよろしくお願い致します。